

## 令和4年度第2回国有林モニターアンケート（結果概要）

東北森林管理局では、開かれた「国民の森林」の実現に向け、国民の皆様のご意見やご感想を的確に把握し、それらを反映した管理経営を推進するための取組の一つとして、国有林モニター制度を設けています。

この度、令和5年2月に、令和4年度第2回国有林モニターアンケートを実施しましたので、その結果概要についてお知らせします。自由意見等については、抜粋・整理して掲載しております。

今回アンケートにご協力いただきました国有林モニターの皆様に、厚く御礼申し上げます。

### ○アンケートの実施概要

発送 : 令和5年1月31日  
回答期限 : 令和5年2月21日  
回答率 : 66% (47人中31人)

### 回答者の内訳

	男性	女性	計
～29歳	0	1	1
30～39歳	0	1	1
40～49歳	3	3	6
50～59歳	3	8	11
60歳以上	6	6	12
計	12	19	31

国有林モニター制度とは、アンケートの実施やモニター会議の開催等を通じて意見を伺うほか、広報やパンフレットで情報提供を行うなど、国民の皆様と国有林との間で、双方向の情報受発信を行う取組です。

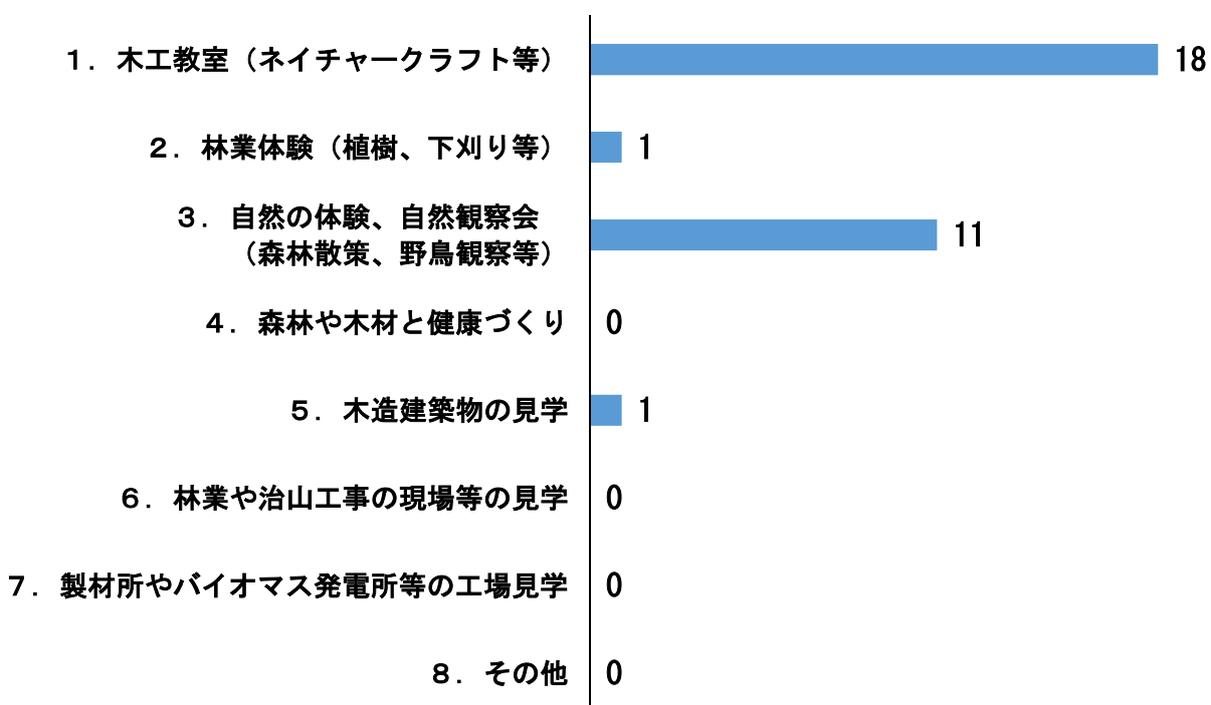
現在、令和4年4月～令和6年3月の2年間を任期として、管内5県の47名の方に国有林モニターとして活動していただいております。

## 1 森林レクリエーション、森林環境教育について

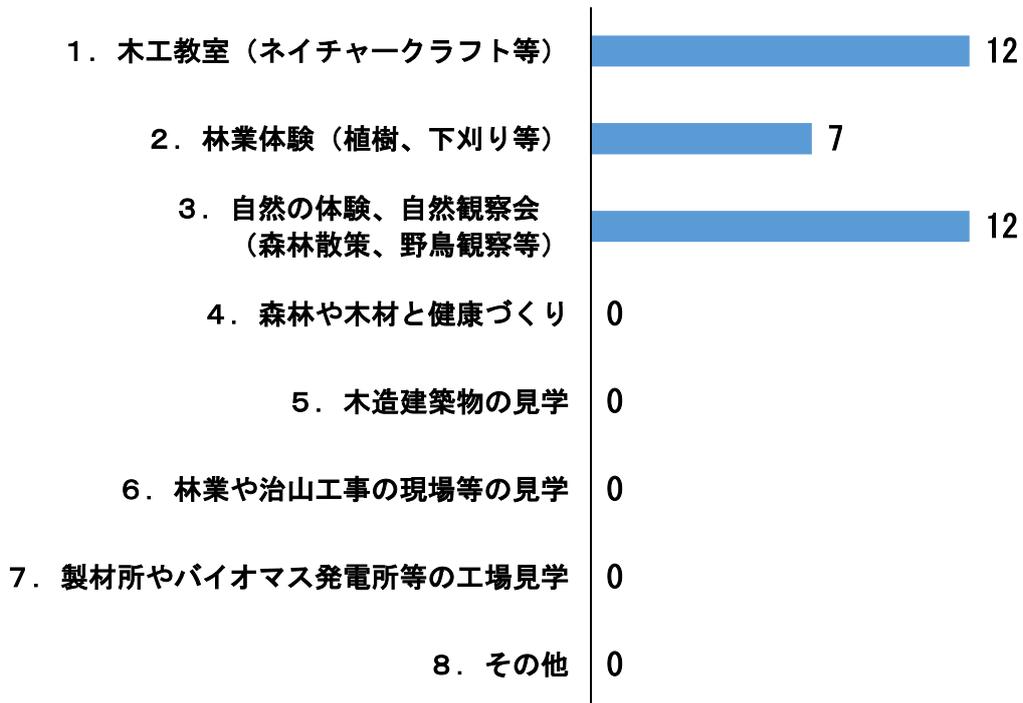
国有林では、国有林の豊かな森林環境を活かし、森林とのふれあいを通じて自然と親しみ、学んでいただけるように様々な森林レクリエーションや森林環境教育を実施しています。

- (1) イベント等を開催する場合に、どのような内容であれば、より森林・林業・木材産業に興味を持っていただけたらと思いますか。それぞれの年代ごとに1つずつ選んでください。

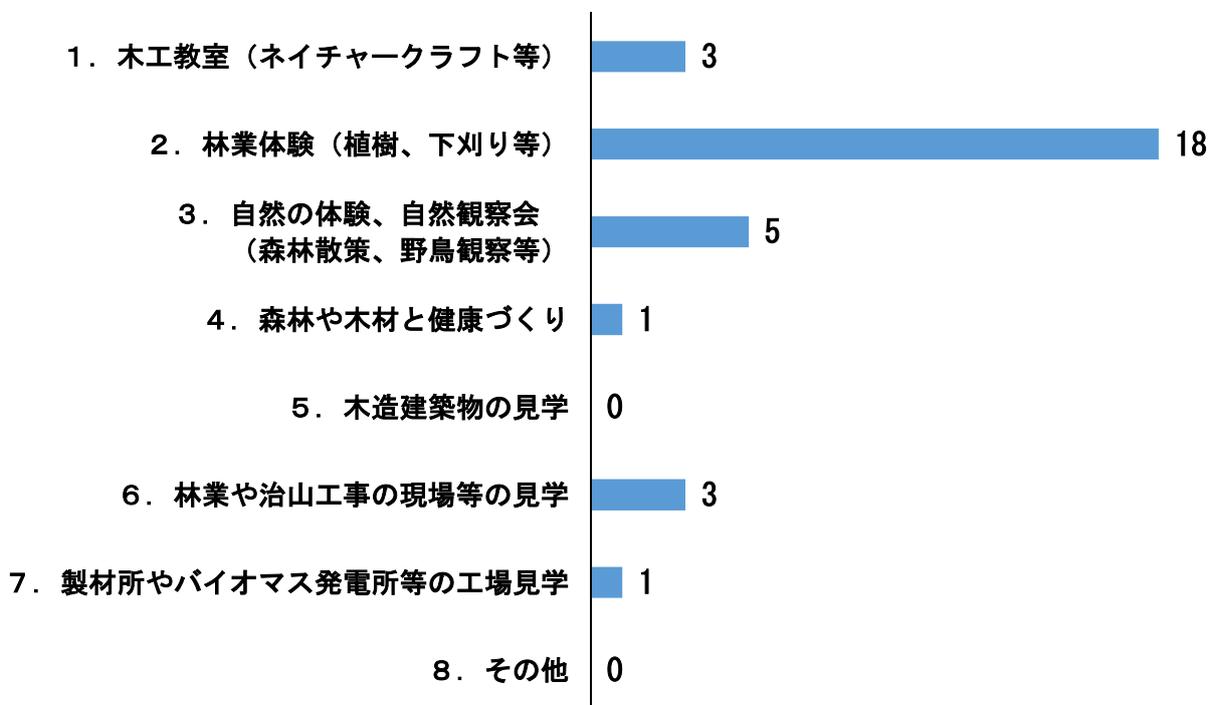
### 【未就学児】



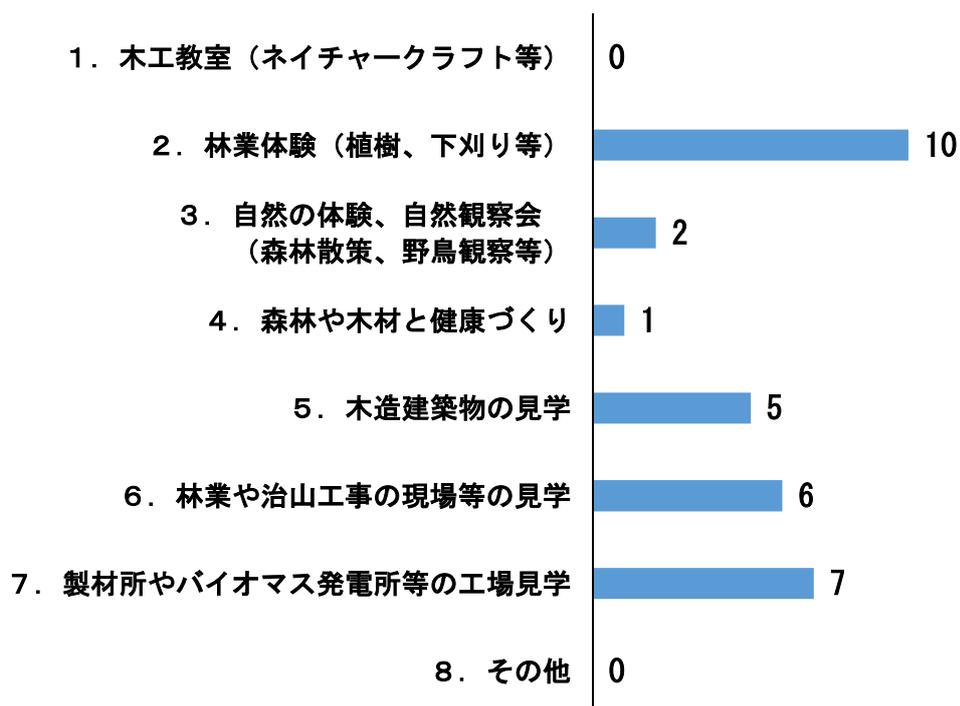
## 【小学生】



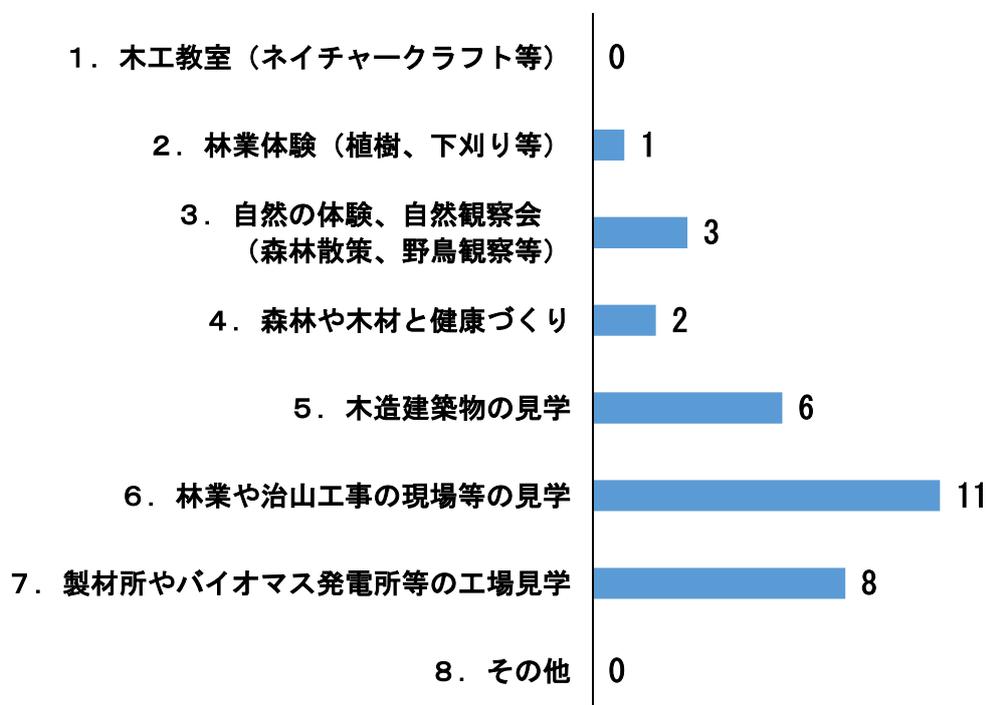
## 【中学生】



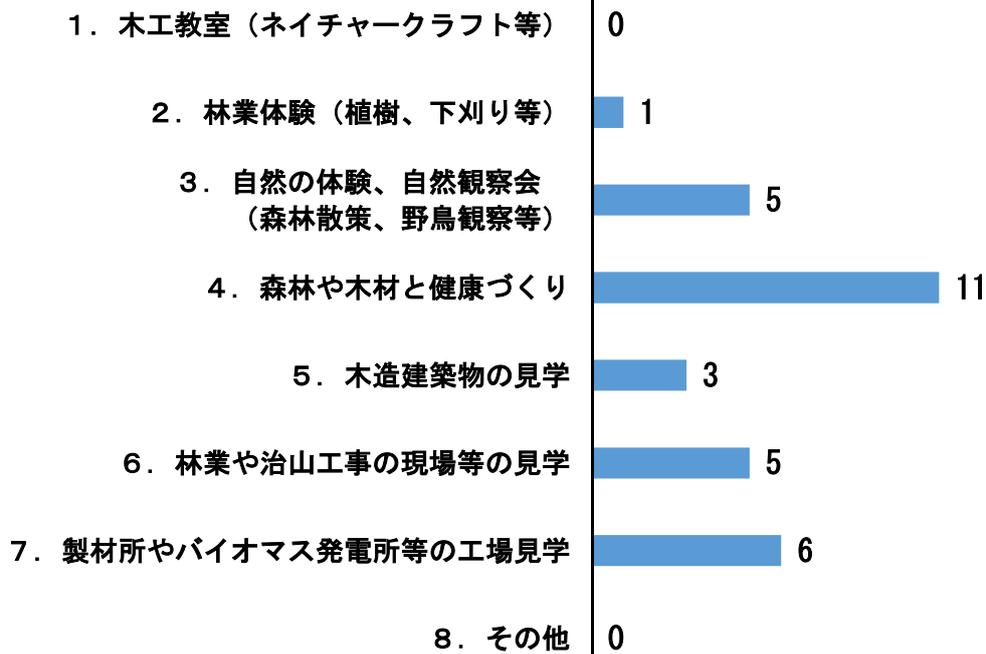
## 【高校生】



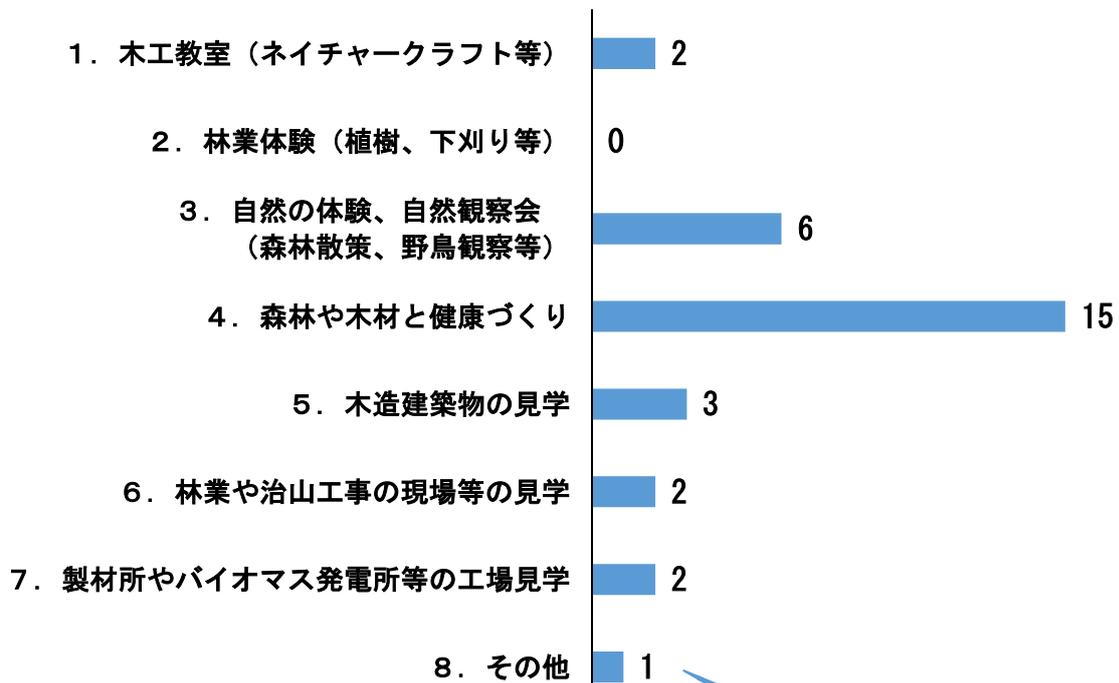
## 【～40歳】



### 【41～60歳】

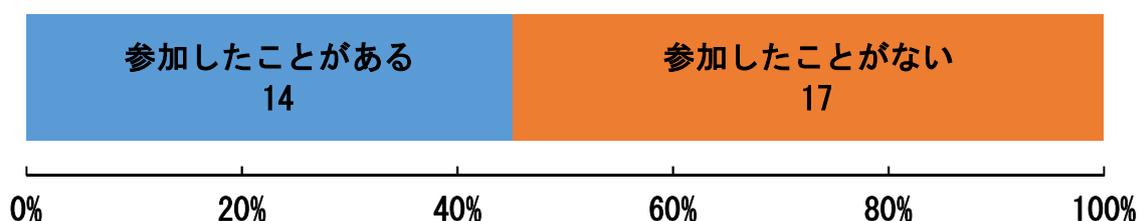


### 【61歳～】



国民1人1人が、森林管理の必要性、その価値を認識してもらうためには、断片的ではなく、全体のプロセスを通して認識をしてもらう必要がある。そのためにも、植林から林業における生産のプロセス（手間、年月）とそのプロセスでのコストも学べる場があればと考える。

(2) ①今までに団体等が主催する森林レクリエーションや森林環境教育のイベント等に参加したことがありますか。



②「参加したことがある」と回答された方

参加した中で1番心に残っている内容、参加された際の年代を教えてください。

#### 【小学生】

- ・ 地元の森林を歩いてまわる社会科での勉強で教育を受けた。丸太をイスにする木工教室をやったことがある。とても楽しく心に残っている。

#### 【高校生】

- ・ 山形で動植物で著名な先生に誘われ、山歩きの行事（教員の勉強会）に行った。大蔵村で、教員の方々と一緒に植物を見ながら、一日、里山を散策した。その時の感動は今も覚えており、植物の利用や食べ方、名前の由来など、その時教えて頂いた植物は今でも忘れておらず、里山に興味を持つようになった。植物に詳しい方にいろんな話を伺えたことは、感動もあり、楽しい一日だった。その日のことは、いまだに知人に話をすることがある。

#### 【～40歳】

- ・ ブナ植樹フェスタ
- ・ 白樺の植樹
- ・ 登山
- ・ 里山の散策と白神山地（二ツ森）登山

#### 【41～60歳】

- ・ 八甲田山での植樹祭
- ・ NPO 団体が主催する森林整備活動
- ・ 勤務していた小学校の児童と緑の少年団の活動として山に植樹
- ・ 陸前高田市の高田松原の松林の再生のための植樹会

- ・ ツリークライミング体験会、チェーンソー教室にスタッフとして参加
- ・ 下刈り
- ・ 森林管理局主催の「森林の市」は簡単な木工品作りや小さな植物のプレゼント等、沢山人達が集まり、盛会だった。きりたんぽを作る際のくしを購入し、現在も重宝している。
- ・ 本立てや桐材での化粧箱等を作る木工教室

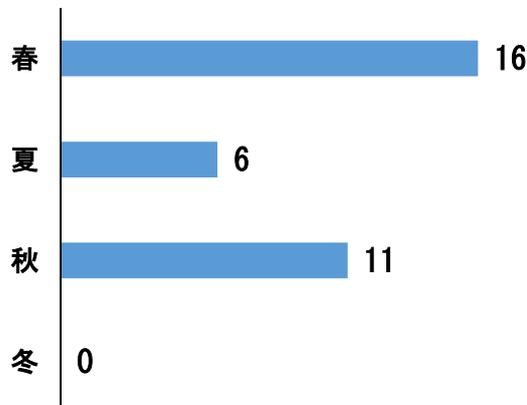
### 【61歳～】

- ・ 北秋田市「県立北欧の杜公園」内での下刈り活動
- ・ 松林健全化ボランティアとして、海岸の松林内で落葉等をかき集める作業

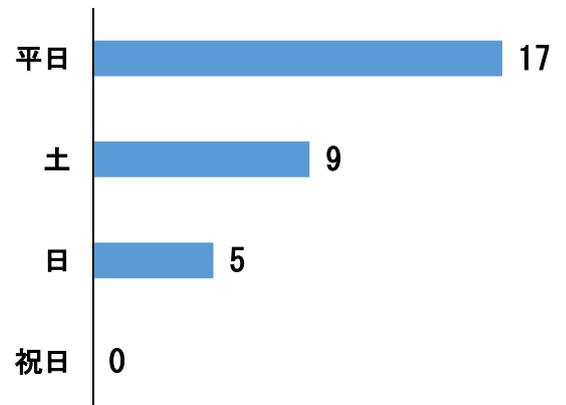
(3) 東北森林管理局や森林管理署が主催する森林レクリエーションや森林環境教育について、お聞きします。

開催形態や内容等について、ご自身が参加する場合に当てはまるものを1つずつ選んでください。

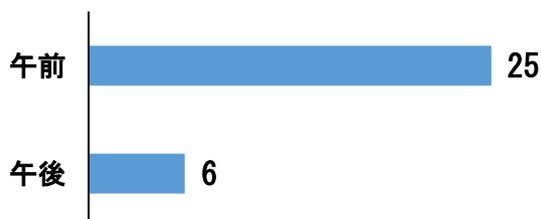
#### ①参加したい季節



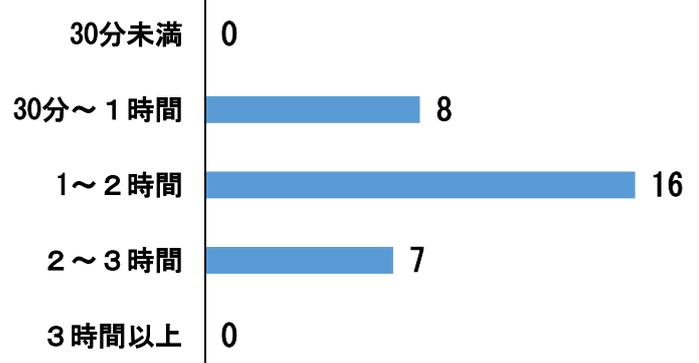
#### ②都合がよい曜日



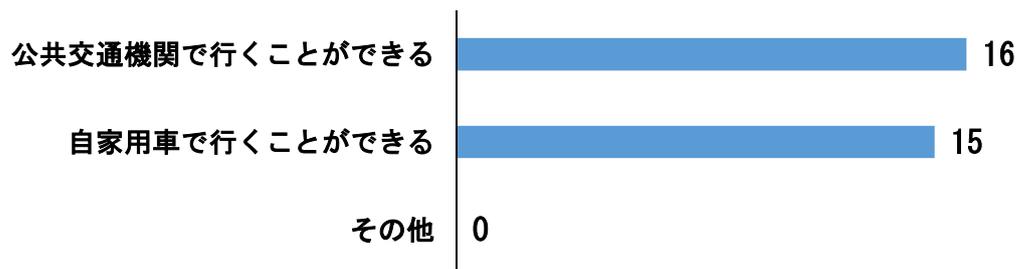
#### ③都合がよい時間帯



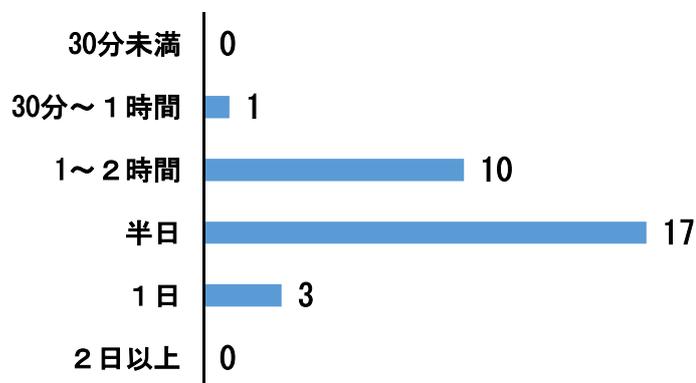
#### ④許容できる自宅からの移動時間



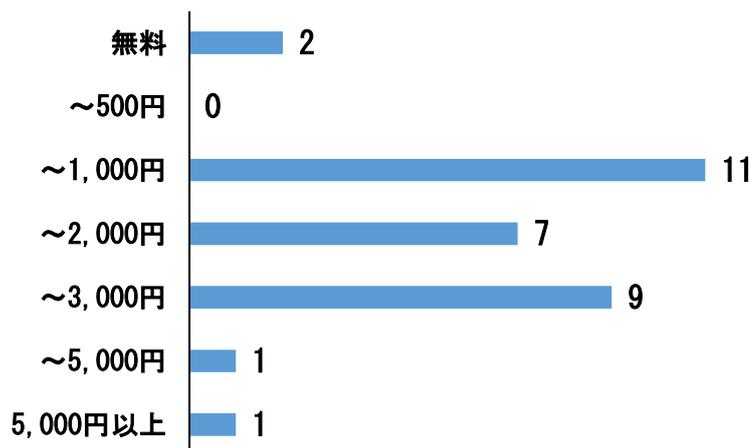
⑤好ましい移動手段



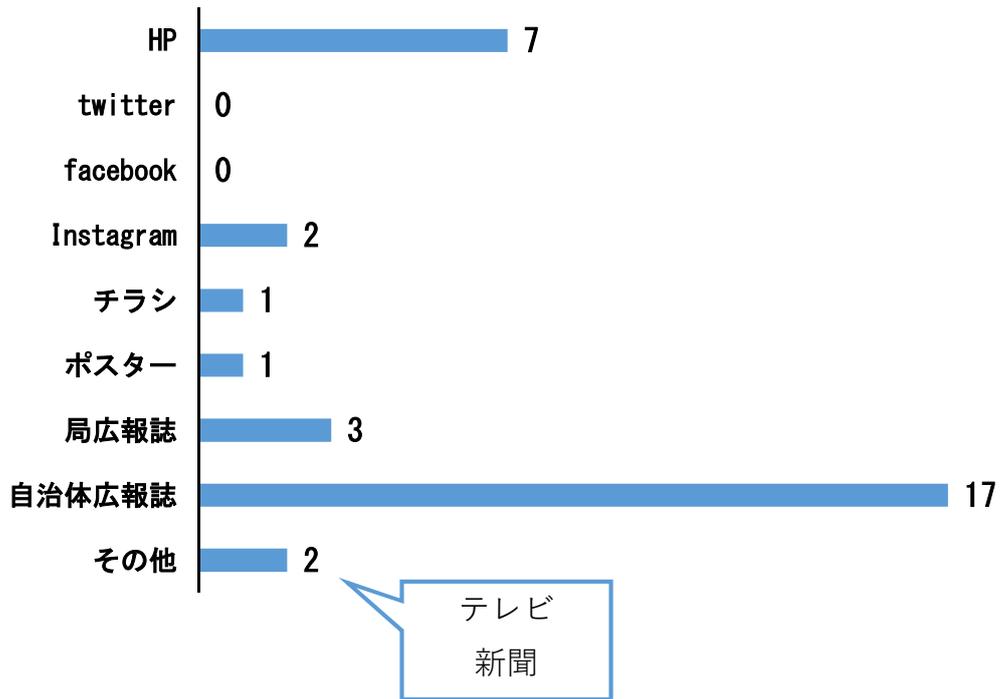
⑥ちょうどよい開催時間



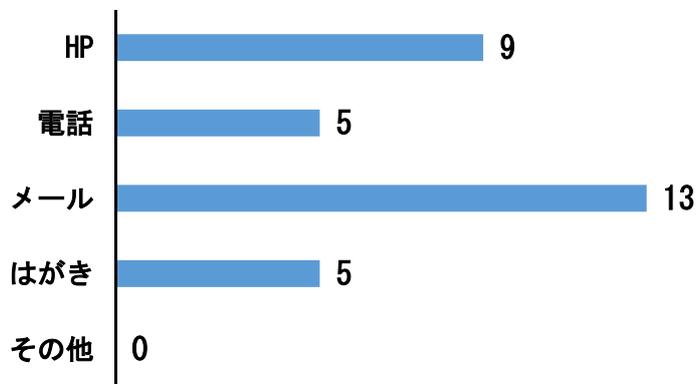
⑦許容できる参加費用



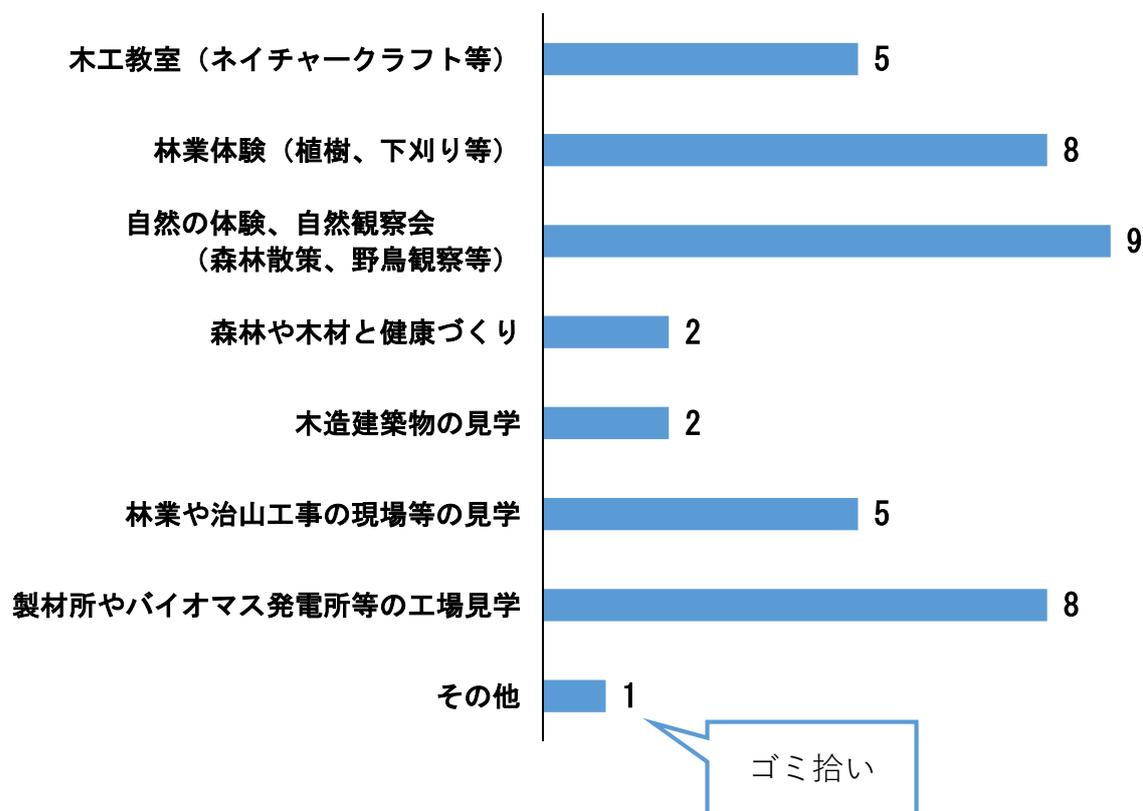
⑧開催告知に有効な方法



⑨参加申込しやすい方法



## ⑩参加したい内容



（４）森林レクリエーションや森林環境教育について、ご意見ご要望等をご自由にお書きください。

- ・ 子供の時から教育を行えば心に残る。教育から取り入れるのが1番良い。
- ・ 園児・児童の時から興味を持つような、楽しく学べる森林環境の活動イベントを作ってほしい。
- ・ 「ガイドの話ばかり」「知識ばかり」では楽しくなくなる。自然で遊んだり、ゲームやクイズなど、誰もが楽しめる工夫があるものに参加したい。
- ・ 植樹等の活動の際に、観光的な要素も加われば、関心を持つ層の掘り起こしになる。
- ・ 伐採、植林や下刈り等の現場作業を見てみたい。
- ・ 木工教室や自然観察会は参加できる機会があるが、通常、体験できないような林業体験をやってみたい。林業のプロの方の技や様々な体験話を伺いたい。森林管理局でしか開催できないようなレクリエーションをお願いしたい。
- ・ 森林レクリエーション、環境教育を通して興味、感心を高めていくことと同じ位に大切なことは、林業そのものの魅力をアピールすることだと思っている（当然、若い世代の人たちが、安定して生計を立てていくことができる職

業にすることが大前提)。お金をかけて立派に整備した森林公園に足を運んでもらい、楽しんでもらうと同時に、アイデアを活かして小規模ながらも林業経営を成り立たせて充実した生活を送っている人を発掘して、その生活を体験してもらうなどの企画も増やしていけると良いのではないか。

- ・ 森林レクリエーションや森林環境教育に参加したいが、仕事があり不参加になってしまう。見学だけでなく山の清掃や枯木をまとめる作業に参加する方が山を守る体験になる。
- ・ 毎月、郵送される広報誌（「林野」や「みどりの東北」）を読むと、各地の小中学校で、国有林での学習やボランティア等の取組が活発に行われている様子がわかり、感心している。局が実施している種々な学校への教育や行事、イベントは、未来を担う子供達にとって、早期に森林の役目や自然に興味を持ってもらう、とても意義深い、素晴らしいこと。今後も対象地域（学校）を広げて、子供達に、そして私達大人にも気軽に参加できる森林レクリエーションや、森林環境教育の場を設けていただきたい。
- ・ 最近はキャンプなどが流行しているように、自然の中での活動に人々は魅力を感じている一方、整備された場所限定という感じで気軽に森林にふれることが難しいとも感じる。以前勤務していた学校では、登山の遠足を実施していたが、トイレが使えなくなり登山はなくなった。個人でも案内板などが少ない所に行くのは不安。山の空気を吸いながら歩いたり、植物を観察したりしたいため、環境整備とイベントの企画を進めていただきたい。
- ・ 気軽に散策できる森があればいい。延長2～3kmの小道を整備し、最低限の解説でも森林に親しみ理解も深まる。森の一面を10m四方ぐらいに囲み、何種類の植物、樹木があるか観察するのも面白い。
- ・ 木の名前、バードウォッチング、山菜、きのこについて、それぞれの研修会やサークル活動などニュースで見たりするが、なかなか参加の機会に恵まれない。図鑑やネットで調べられるが、目の前で名前や生態を直接教えていただく楽しさは別物。老いて知りたいことは子供の頃や若い時とは異なるように思う。年を重ねてさらに理解を新たにすることがたくさんあり、近くの山々で楽しみながら勉強させてもらう機会があるとうれしい。
- ・ 未成年はできるだけ体験することの方が印象に残りやすい。大人には少し教養になるようなことで深い関心を持ってもらい、さらに年齢を重ねた方はゆったりと森林の良さを感じてもらう。
- ・ 木のおもちゃ美術館は、森の生き物や木々の恵みの観察をしながら、学び感じる良い施設。「もくいく体験塾」では、春・夏・秋の森で森林インストラクターの説明に子供も大人も興味津々に遊びながら学んでいる。
- ・ モニターになって毎月送ってもらう広報誌を目にすることで様々な知識が増

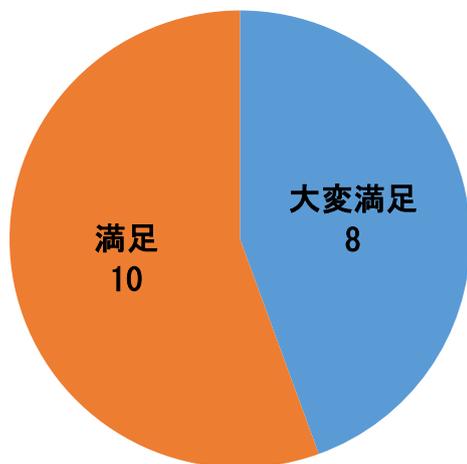
えた。都会の方々は自ら森林に触れる機会を探してやって来る。東北に住む人には行政やマスコミを利用して関心を持ってもらい、小さい頃からの森林レクリエーションが遊びにつながれば、森林環境教育にも活かせる。近くにある自然が特別だと気づく機会があるといい。

- ・ 森林環境教育はとても大切。イベントも良いが、もっと日々の生活の中で触れることができると意識が変わるのではないか。
- ・ 次のイベントの企画、開催へつなげるためにも、テーマをもって、内容を深く、やさしく、継続的したイベント企画にしてはどうか。
- ・ 県民にもっと周知して感心を持って参加できることを四半期ごとに企画し、参加者を増やすことで少しずつ地道に活動していくことが大切。国や県は、どう向き合っていこうとするのか、自然とのふれあいの楽しさ、危険さの両方を教えていくことが必要。

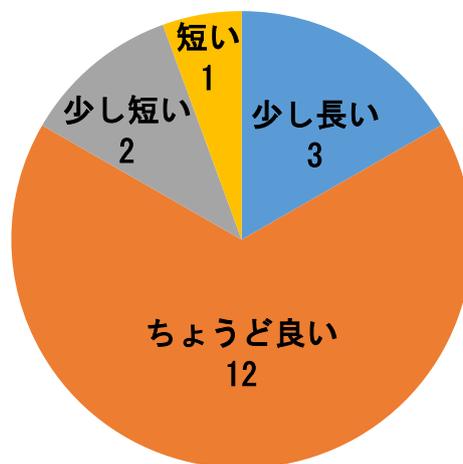
## 2 現地見学会について（参加者のみ）

（1）11月9日に山形森林管理署管内で実施した現地見学会（※別紙参照）について、それぞれ当てはまるものを選んでください。

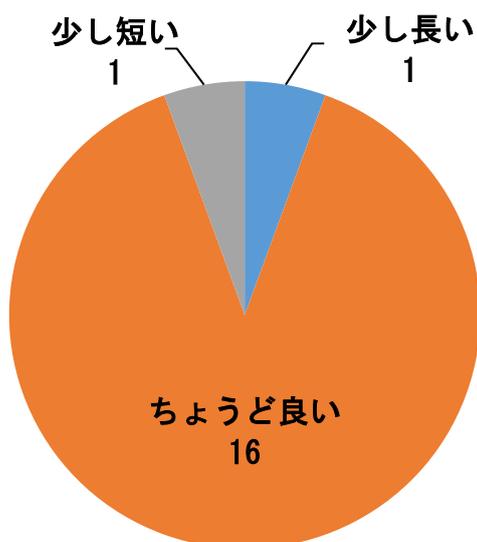
①見学内容



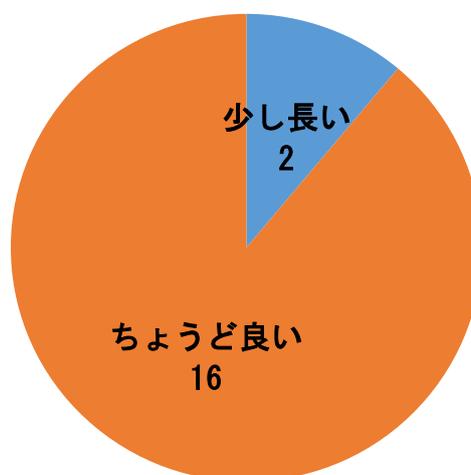
②見学時間



③昼食時間



④移動時間



（2）今回の現地見学会についてご意見・ご感想等がございましたら教えてください。

- ・ できればもう少し暖かい季節にもっとじっくり見学したかった。
- ・ 寒さ等で話が入ってこず、見学した後に室内で説明等があれば良かった。
- ・ 場所が高い山だったので、説明が長く、聞いている時間が寒く、集中しにくいと感じた。育つ環境を感じてもらうのも大切だが、きちんと聞いてもらう環境を作っていただけるといいと感じた。
- ・ 現地見学会は寒いとは聞いていたが、気温〇度、風も強いため、真冬の準備を

と情報があれば山を知らない人でも、当日困らないで現地で説明をゆっくり聞けると思った。

- ・ リアルに、その場の自然環境を体感できたことは有意義だった。ただ、その現場でないと体験できないこと、事前に把握できることを分けてもらえれば、もっと、中身の濃い現地体験になる。
- ・ あの有名な樹氷の木が虫によって枯れるとは意外だった。モニターになって森林や山の事が気になるようになった。
- ・ 蔵王の麓からロープウェイで現地に降り立ち、害虫被害により枯れた木々を目の当たりにした時は信じられない思いで、本当にショックを受けた。「松食い虫」という言葉は、岩手でも日頃、耳にすることがあるが、実際にその被害の実情を自身の目で見るのは初めてだった。森林管理局の職員や、地元の小学生達が新たに苗木を植林しているとのことで、地道な努力に感激もした。蔵王の素晴らしい自然がこれ以上壊れないよう、また枯れた木々が少しでも直っていくよう願っている。
- ・ 蔵冬期を迎えて、旅行会社の広告には「樹氷ツアー」が美しい画像と共に掲載されている。本日も国内外から多くの観光客が訪れていると想像するが、雪の下に隠れた虫害を知る人は何割いるのか。現地見学会では、なかなか一般的にはクローズアップされ難い、しかし大きな問題を目の当たりにすることができて、大きな満足感に浸った。気象条件の厳しさも相まって、プライベートの旅行よりも印象深い1日となった。
- ・ 秋田県からは遠く、行き帰り大変だったが、蔵王に連れて行ってもらい、色々な情報を耳にしたり、自然に触れられ貴重な1日にしてもらった。
- ・ 蔵王の針葉樹「オオシラビソ」の立ち枯れを知り心を痛めている。今回の現地見学では一緒に行ったメンバー達とただ見守ることしかできなかった。移植、苗木を育てている場所も見したが、食害に対し厳しい現状だった。害虫駆除の薬剤、立ち枯れた木を切り倒し蒸すなどの殺虫は、国定公園の特別保護地区のため、環境への影響考慮で難しく、監視を続けるしかない現状を知った。この自然を次世代へ残してゆきたい皆さんの思いを強く感じ、今後も見守っていく。温暖化を止められるよう世界でまとまらなければ、このような害虫が、他にも増えると、自分で調べる機会となった。
- ・ 杉や松などの苗と同様に、オオシラビソの苗が供給されて、大規模な植林事業が展開されるものと思っていた。関係者の苦勞を知ることができて良かった。
- ・ 蔵王山頂のほんの一部での移植だけでなく、広範囲での移植計画・実施をしてはどうか。資金の問題もあるが、先行事例として予算化し、またはクラウドファンディング等で資金を集めて行う。
- ・ 蔵王標高 1,400mより上部のオオシラビソが枯れた現状に本当に驚いた。自然

環境研究が重要だと思う。出来るだけ努力して緑のオオシラビソが見られる環境に再生できればと思う。

- ・ 樹氷のもとになっている樹木の惨状をみてショックを受けた。木材資源としては活用されない森林の保護については（観光資源にはなっている）難しい課題があることを知った。ただ、土砂災害のリスクにも関わってくるのであれば、管轄はどこであれ、国や県の事業として取り組むべきと思う。
- ・ 今まで疑問に思っていたことも、直接職員に質問でき、オオシラビソの被害や再生に向けての対応を直接見て、感じ、とても有難くいい体験をさせてもらった。見学会で知り得たこと、感じたこと、その後、知人に何度か話をした。山形という地元ということもあり、オオシラビソの被害の状況などを、職場の教育の時間に、取り上げたりもした。もう少し時間を長くして、もっと、職員の方の話を聞いたり、蔵王の樹木について教えてもらいたかった。
- ・ 地元の新聞で「異変-生態系クライシス」と企画されていて、モニターになっていることもあり興味を持っていた。実際に現場に足を運び、職員の方から生の声を聞いたことは有意義だった。若い時は冬の蔵王の樹氷原をスキーで通ったこともあり、山形の自然を大切に守っていきたく強く思った。なかなか、普段は訪れる場所ではなく、いい経験をさせていただいた。

令和4年度第2回 国有林モニター現地見学会

1 開催目的

レクリエーションの森や蔵王地域におけるオオシラビソ林再生の取組の見学により、国有林野の活用、森林資源の適正な管理・利用への理解を深めることを目的とする。

2 開催日時

令和4年11月9日（水）11：00～16：00

3 開催場所

山形森林管理署管内（山形県山形市）

4 行程

10：00 集合（山形駅）

11：25 昼食（山形県観光物産会館ぐっと山形）

12：35 山形森林管理署の概要、レクリエーションの森説明  
（蔵王ロープウェイ蔵王山麓駅）

13：45 オオシラビソ林再生の取組見学  
（蔵王ロープウェイ地蔵山頂駅）

16：00 解散（山形駅）

5 概要

見学会当日の様子は下記を御覧ください。

[https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/policy/business/kokuminsanka/monitor/pdf/R4\\_kengakukai2.pdf](https://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/policy/business/kokuminsanka/monitor/pdf/R4_kengakukai2.pdf)

